

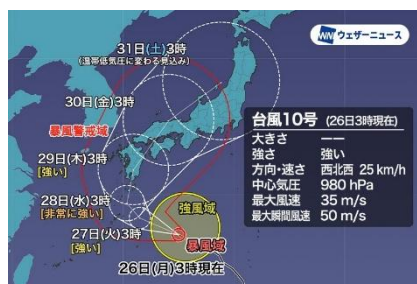
# 防災ニュース

2025年1月発行 車返西防災委員会

43号

## 2024年度 総合防災訓練について

会長 浅野 大輔



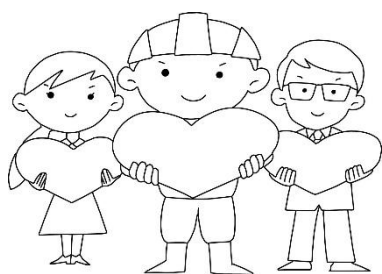
8月31日に予定されていた防災訓練は、台風10号の影響により大雨になる予報が出ていたため、28日の夜の段階で中止と判断しました。今回の台風10号は、数十年に1度の規模であり、風雨も強くなるという予報でした。進路の予報円もなかなか定まらない中で、住民の皆さんの安全を第一に考え、早めの判断としました。また、このような時に消防署への中止の判断も早く伝えた方が良くであろうとも考えました。今回の中止の判断につきましては、ご理解いただければと思います。

「車返西住宅からは災害関連死を出さない」を目標に活動してまいりますので、引き続きご協力をよろしくお願いします。



## 令和6年能登半島地震の支援に参加してきました

会長 浅野 大輔



令和6年能登半島地震の支援のため、2024年2月8日～11日まで石川県金沢市にある「いしかわ総合スポーツセンター」に行ってきました。いわゆる1.5次避難所ということで、2次避難所や災害公営住宅に移る前に一時的に滞在する場所でした。体育館は、「メインアリーナ」に一般避難者、「サブアリーナ」に高齢者や身体障害のある方たち、「マルチパーパスルーム」には重症の方達が避難していました。その他、プールとトレーニングルームがありますが、そこでは市内の人たちが通常通りの施設利用をしていました。

私が支援したのは、80歳前後の高齢者と重度の身体障害のある方達でした。皆さん珠洲市や輪島市、七尾市など今回大きな被害を受けた半島の市や町の出身の方たちでした。パーティーションの仕切りの中にダンボールベッドが2つ配置された狭い場所での生活でした。お風呂はなく、シャワ

一室1室を70名近い方達がローテーションで利用でしたので、1ヶ月以上シャワーを浴びていない方もいました。また、センターのトイレもあるのですが、同じフロア内にある簡易トイレを利用するケースが多く、衛生状態を保つことが大変でした。私がいる間にも、嘔吐下痢の症状が出てしまった方が出て、隔離スペースに移動していました。

これらの状況から、東京で大規模災害が発生した場合、自宅に損害が無ければ「在宅避難」が一番良いと思いました。せっかく生き延びた命が避難所に行って感染症のリスクにさらされることは避けた方が良いでしょう。大きな地震の後はトイレは使えません。電気や水道が止まり、食料確保が難しい状態になると思います。在宅避難は、プライバシーや衛生状態を保つことができます。

一方で自宅に留まるということは、一人暮らしの高齢者など、孤独死のリスクが高まります。そこで大事になってくるのが、日頃から住民同士のコミュニケーションや防災訓練です。普段から声を掛け合う関係が出来ていれば、何かの時には行き来して助け合うことができると思います。以上のことから、初期の段階は自助、共助をもとに在宅避難を視野に入れた備えをしていくべきだと思います。

昨年の6月に内閣府から「在宅・車中泊避難者等の支援の手引き」が出され、国としても在宅避難を前提とした災害対策を立て始めています。自分で数日過ごせる備えと住民同士が声を掛け合い助け合えるコミュニティを作っていきましょう！



### 【避難所の様子】

|                                                                                    |                                                                                      |                                                                                       |
|------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
|  |  |  |
| メインアリーナ                                                                            | サブアリーナ                                                                               | サブアリーナの通路                                                                             |
|  |  |  |
| 居室内2人部屋                                                                            | 室内トイレ                                                                                | 物資　～オムツ・着替えなど～                                                                        |



## 巨大地震で水が止まった時、給水って？

予防部長 大沢 大介

ご存知ですか？

府中第六中学校校門の右側に車返西住宅の生活水を供給している「車返西住宅管理組合給水場」があることを。

昨年９月に建屋内にある水槽と水槽をつなげる連通管バルブの交換工事で、約８時間の断水をみなさんは経験したと思いますが、巨大地震でも同じように長時間・長期に渡り断水する事が想定されます。当然ですが、東京では数万人が被災し、建物の倒壊や火災のため、すぐに給水車や水道管の修繕に来ることはなく、しかも給水場が無事かどうか分かりません。

給水場の場所を確認しつつも、普段からペットボトルの飲料水や長期保存水を準備していただくことで、救援が来るまでの時間を生き抜く事ができると考えられます。迫りくる巨大地震に各ご家庭で防災用品の準備を進めて下さい。また、防災訓練の際に給水場を開くのでご自身の目で場所の確認をお願いします。



## 秋の防犯パトロールについて

予防部 大野 ゆき子

2024年11月11日(月)～15日(金)までの5日間、秋の防犯パトロールを実施しました。

地域の安全＆安心は継続的な取り組みが必要です。今年も近隣地域を3コースに分かれて、パトロールしました。平日の夕方で参加者が限定されましたが、延べ127人の方に参加して頂きました。

参加者からは、「ウォーキング(散歩)に丁度良い」という感想もいただきました。また、パトロールを見た方からは、「夕方になりかけた時間に防犯ベストを着て、誘導灯をチカチカさせて目立って良かった」との声も頂きました。参加された皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



## 防災用品展示販売の様子

管理部 五十嵐 規子

9月22日(日)午後、集会所でライフネクストの方と共に防災用品の展示販売会を行いました。非常食、水、携帯トイレ、折り畳み式ヘルメット、非常灯、非常用持ち出しリュックなどの展示販売がありました。

非常食はさまざまな種類があり、水を入れるだけなど、調理も手軽にでき、いざという時の備えにととても心強いと感じました。試食のおかきが非常食と思えないほど美味しかったです。

また、マグネットで貼り付けるタイプの非常灯などは実際に手に取って試すこともできました。災害用の洋式のトイレの実物も組み立て、どのように使用するか、実際に災害が起きたときの話を交えて説明があり、汚物の処理方法の一つにしても、普段の生活からは想像も付かない問題が多々あることが分かりました。

昨年は地震や豪雨の影響で防災食、防災用品の販売数が増え、普段より品薄の物もあった、とのことでした。今後も防災訓練に併せて展示販売会を行う予定なので、ぜひ一度足を運んでみて下さい。



## <南白小・地域安全マップづくり>に参加して

予防部 菅谷 哲夫



2024年10月2日(水)、南白糸台小学校の「地域安全マップづくり」のフィールドワークの講師(地域代表の引率者)として防災委員会から4名が参加しました。

このイベントは、「子供たちの身の安全を守るために、前年度に作成した安全マップをもとに(毎年3・4年生中心)子供たち目線で見えた危険箇所等の確認をし、危険予測・危険回避能力を育てる」目的で、毎年実施されているものです。子どもたち91名を地区別(白糸台A・B、押立A・B、車返団地)の15グループに分け、それぞれにPTA・講師が同行し、適時、道順・安全・時間配分等の助言(サポート)を行いました。

終了後、講師・PTAと学校で反省会を行い、情報の共有を行いました。子供たちは、後日、授業の中でこのフィールドワークを振り返り、グループでの事後学習を行い、10月30日(水)の発表会で2年生・来賓に向け、学んだことを発表しました。

### 【編集後記】

原稿を早々にいただいていたにもかかわらず、11月末発行予定の防災ニュースが年をまたいでの発行となってしまったことをお詫びいたします。申し訳ありませんでした。

次回の発行は、3月末を予定しております。

<広報部長 石原嘉人>